

令和元年5月29日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02492

研究課題名（和文）TEIによる次世代英文学アーカイブの構築

研究課題名（英文）The Making of Digital Text Archive of English Literature through the TEI Guideline

研究代表者

今林 修（Imahayashi, Osamu）

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：90278987

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）： TEIのガイドラインに沿って、英文学史上極めて重要な作家（Geoffrey Chaucer, William Shakespeare, Samuel Johnson, Charles Dickens）の電子テキストの学術決定版を、今日までの文献学で培われて学際的蓄積を加味し、通時的に偏ることなく実験的に作成し、その方法を確立した。将来、この手法によって作成された他の英語英文学における電子テキストの学術決定版を集積してインターネット上に大規模な Digital Text Archiveを構築し、世界の英語英文学研究への寄与が期待できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

TEIのガイドラインに沿って、英文学史上極めて重要な作家（Geoffrey Chaucer, William Shakespeare, Samuel Johnson, Charles Dickens）の電子テキストの学術決定版の作成方法を確立させることによって、将来、この手法に用いて作成された他の英文学における電子テキストの学術決定版を集積した大規模な Digital Text Archiveをインターネット上に構築することができ、世界の英語英文学研究への寄与が期待できる。

研究成果の概要（英文）： This project has tentatively made some Digital Definitive Scholarly Texts of the English Literature from some of the works and the letters by important British literary authors, such as Geoffrey Chaucer, William Shakespeare, Samuel Johnson, and Charles Dickens by strictly and precisely following the Text Encoding Initiative Guideline. The project established the methods to make Digital Definitive Scholarly Texts of the English Literature in order to create large-scale Digital Text Archive in the internet space, which will contribute to English linguistics and philology, and literary criticism in the future.

研究分野：英語学、フィロロジ、英文学

キーワード：TEI 学術電子テキスト決定版 英文学アーカイブ Chaucer Shakespeare Johnson Dickens

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2010年にロンドン大学キングズ学寮で開催されたDH2010(Digital Humanities 2010)にて、人文科学分野の文書を中心としたテキストの電子文書化を積極的に推し進めている学術団体TEIがあることを知った。TEIは、人文科学系の文書の電子文書化を推進する一方で、そのガイドラインを非常に詳細に定めている。そのガイドライン「TEI P5: Guidelines for Electronic Text Encoding and Interchange by the TEI Consortium」(<http://www.tei-c.org/release/doc/tei-p5-doc/en/Guidelines.pdf>)では、SGML(Standard Generalized Markup Language)、XML(Extensible Markup Language)をはじめ、様々なマークアップ言語(Markup Language)による電子化(Digitalization)を定義しており、情報の交換や共有のための世界共通基準のフォーマットを定めている。

英語英文学研究者にとって有用な電子テキストは、英語英文学研究の立場に立ってその研究者が自ら作成すべきなものではなかろうかと考え、それに十分に答えてくれる世界基準のTEIガイドラインに沿った電子テキストアーカイブを構築する礎になるプロジェクトを考案した。

2. 研究の目的

TEI(Text Encoding Initiative)のガイドラインに沿って、英文学史上極めて重要な作家(Geoffrey Chaucer, William Shakespeare, Samuel Johnson, Charles Dickens)の電子テキストの学術決定版(Digital Definitive Scholarly Texts of the English Literature: 以降DDSTELとする)を、今日までの文献学で培われて学際的蓄積を加味し、通時的に偏ることなく作成することである。将来、この手法によって作成された他の作家のDDSTELを集積してインターネット上に大規模なDigital Text Archive(以下DTAとする)を構築し、世界の英語英文学研究への寄与を見据えている。

3. 研究の方法

TEIのガイドラインに準拠して、Chaucer, Shakespeare, Johnson, DickensのDDSTELを作成する。その際に、英語英文学研究に必要なテキスト情報をタグ化し、できるだけ多くの情報をテキストに織り込んでいく。本研究はディケンズレキシコンの共同研究と相互補完関係にあるので、その共同研究から生じるテキスト情報へのニーズも反映させる。さらに、本研究は、英文学を網羅する大規模コーパスのDTAを構築することを長期的な学際的視野に入れているので、作成したDDSTELの問題点を洗い出し、今後DDSTELを作成していく上での規格と基準を定める。

4. 研究成果

TEIのガイドラインに沿って、英文学史上極めて重要な作家(Geoffrey Chaucer, William Shakespeare, Samuel Johnson, Charles Dickens)の電子テキストの学術決定版を、今日までの文献学で培われて学際的蓄積を加味し、通時的に偏ることなく実験的に作成し、その方法を確立した。将来、この手法によって作成された他の英語英文学における電子テキストの学術決定版を集積してインターネット上に大規模なDTAを構築し、世界の英語英文学研究への寄与が期待できる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 14件)

- ① Hideshi Ohno, On the use of *lief* in Chaucer, *The Pleasure of English Language and Literature*, 査読有、2018、261-275
- ② Hiroji Fukumoto, A pragmatic study of tag questions in Shakespeare, *The Pleasure of English Language and Literature*, 査読有、2018、15-26
- ③ Hideshi Ohno, Akiyuki Jimura, Yoshiyuki Nakao, Noriyuki Kawano, Kenichi Satoh, Textual Variations and Readings among the Manuscripts and Editions of *The Canterbury Tales*: With Special Reference to *The Knight's Tale*, 英語英文学研究、査読有、62巻、2018、1-13
- ④ Kazuho Mizuno, Properties of English Prose in the Eighteenth Century, *Studies in Middle and Modern English: Historical Variation*, 査読有、2018、119-138
- ⑤ Hideshi Ohno, Emotional Expression in Chaucer: With Special Reference to *herste*, 英語英文学研究、査読有、61巻、2017、69-84
- ⑥ 永崎研宣, インド学仏教学を未来につなぐために—研究資料ネットワークの再形成に向けて—, 印度学仏教学研究、査読有、65巻、2017、1015-1022
- ⑦ 大野英志, チョーサーの感情表現:*herste*を中心に、日本英文学会第88回大会 Proceedings、査読無、2016、277-278
- ⑧ Hideshi Ohno, *I preye/biseche (yow/thee)* in the Late Fourteenth Century: With Special Reference to Chaucer, *Language and Style in English Literature*, 査読有、2016、45-57
- ⑨ Hiroji Fukumoto, Pronominal Variation and Grammaticalization of *look*-forms in Early Modern English, *Language and Style in English Literature*, 査読有、2016、97-107
- ⑩ Osamu Imahayashi, A Corpus-Based Sociolinguistic Study on the Use of *look*-forms in the 19th Century, *Language and Style in English Literature*, 査読有、2016、161-172

- ⑪ Miyuki Nishio, The Reporting Clause in Dickens's Works, *Language and Style in English Literature*, 査読有、2016、173-187
- ⑫ 大野英志, *The Tale of Melibee* の *ouen* について、言葉で広がる知性と感性の世界—英語・英語教育の新地平を探る—、査読有、2016、23-31
- ⑬ 福元広二、初期近代英語期における付加疑問文について、言葉で広がる知性と感性の世界—英語・英語教育の新地平を探る—、査読有、2016、155-163
- ⑭ 水野和穂, *Old Bailey Corpus* による後期近代英語研究、言葉で広がる知性と感性の世界—英語・英語教育の新地平を探る—、査読有、2016、172-179

[学会発表] (計 18 件)

- ① Osamu Imahayashi, Charles Dickens's Private Language and the Language of Fiction, The 23rd Annual Dickens Society Symposium, 国際学会、チュービンゲン大学 (ドイツ)、2018
- ② Hideshi Ohno, Variation among Manuscripts and Editions of *The Canterbury Tales*: With Special Reference to Personal and Impersonal Constructions, The 21st Congress of the New Chaucer Society, 国際学会、トロント大学 (カナダ)、2018
- ③ Yu Okubo, Yoko Mabuchi, Kiyonori Nagasaki, Implementing TEI to Japanese Modern Texts, TEI2018, 国際学会、一橋大学、2018
- ④ Tomoko Bialock, Dawn Childress, Hiroyuki Ikuura, Kiyonori Nagasaki, Towards unified descriptive practices for Japanese classical texts: TEI, IIF, and the UCLA Toganoo Collection of Esoteric Buddhism, JADH2018, 国際学会、一橋大学、2018
- ⑤ 水野和穂, 後期近代英語研究の諸問題、立命館大学国際言語文化研究所・言語教育情報研究科共催学術講演会、立命館大学、招待講演、2017
- ⑥ 今林修, 「伝統的な言語文化」と英語教育、日本英文学会中国四国支部第 70 回大会、就実大学、シンポジウム、2017
- ⑦ Kiyonori Nagasaki, Tetsuei Tsuda, Yuho Kitazaki, A. Charles Muller, Masahiro Shimoda, A Collaborative Approach between Art History and Literature via IIIF, DH2017, 国際学会、モントリオール大学 (カナダ)、2017
- ⑧ Naoki Kokaze, Kiyonori Nagasaki, Makoto Goto, Yuta Hashimoto, Masahiro Shimoda, Albert Charles Muller, TEI/XML Markup of Engi-shiki as Research Platform for Historians of Ancient Japan, DH2017, 国際学会、モントリオール大学 (カナダ)、2017
- ⑨ Takashi Harada, Kiyonori Nagasaki, Kosetsu Ikeda, Atsuyuki Morishima, The Power of Crowdsourcing and Libraries, DH2017, 国際学会、モントリオール大学 (カナダ)、2017
- ⑩ 福元広二, A Pragmatic Study of Tag Questions in Shakespeare, The 58th Summer Seminar of the English Research Association of Hiroshima, 広島大学、2017
- ⑪ 今林修, 英文学とフィロロジから大学英語教育を考える、大学英語教育学会中部支 2017 年度秋季定例研究会、中部大学、招待講演、2017
- ⑫ 大野英志, *Le Livre de Mellibee et Prudence* と *The Tale of Melibee*, 日本英文学会第 88 回全国大会、京都大学、シンポジウム、2016
- ⑬ Naoki Kokaze and Kiyonori Nagasaki, Extensibility of 'Transactionography' for Multilingual Historical Financial Records, MEDEA: Modeling semantically Enriched Digital Edition of Accounts, ウィートン・コレッジ (アメリカ)、招待講演、2016
- ⑭ Toru Tomabechi and Kiyonori Nagasaki, the SAT Project: Toward a New Ecosystem for Buddhist Studies, East Asian Manuscript and Print as Harbingers of the Digital Future, ブリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)、招待講演、2016
- ⑮ Masahiro Shimoda and Kiyonori Nagasaki, A Digital Ecosystem for Buddhist Studies: An Attempt by the SAT Project, Buddhist Literacy in Early Modern Northern Vietnam, ラットジャー大学 (アメリカ)、招待講演、2016
- ⑯ Kiyonori Nagasaki, Technical Aspects of SAT Database, International Conference on Recent Trends in Buddhist Research, 浙江大学 (中国)、招待講演、2016
- ⑰ Kiyonori Nagasaki, Toru Tomabechi, Charles Muller, Masahiro Shimoda, Digital Humanities in Cultural Areas Using Texts That Lack Word Spacing, DH2016, クラコウ (ポーランド)、2016
- ⑱ Kiyonori Nagasaki, Tetsuei Tsuda, Charles Muller, Masahiro Shimoda, Tagging on Buddhist Images via IIIF and TEI encoding, TEI2016, ウィーン (オーストリア)、2016

[図書] (計 4 件)

- ① Hideshi Ohno, Kazuho Mizuno, Osamu Imahayashi, 溪水社, *The Pleasure of English Language and Literature*, 2018、400
- ② 片見彰夫、川端朋広、山本史歩子、大野英志、福元広二、他、開拓社、英語教師のための英語史、2018、288
- ③ 豊田昌倫、堀正広、今林修、研究社、英語のスタイル—教えるための文体論入門、2016、302

- ④ Ken Nakagawa、Akiyuki Jimura、Osamu Imahayashi、溪水社、*Language and Style in English Literature*、2016、231

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：水野和穂
ローマ字氏名：Kazuho Mizuno
所属研究機関名：広島修道大学
部局名：人文学部
職名：教授
研究者番号 (8 桁)：30229702

研究分担者氏名：福元広二
ローマ字氏名：Hiroji Fukumoto
所属研究機関名：広島修道大学
部局名：商学部
職名：教授
研究者番号 (8 桁)：60273877

研究分担者氏名：大野英志
ローマ字氏名：Hideshi Ohno
所属研究機関名：広島大学
部局名：文学研究科
職名：准教授
研究者番号 (8 桁)：80299271

研究分担者氏名：島美由紀 (西尾美由紀)
ローマ字氏名：Miyuki Shima (Miyuki Nishio)
所属研究機関名：近畿大学
部局名：工学部
職名：准教授
研究者番号 (8 桁)：50549524

研究分担者氏名：永崎研宣
ローマ字氏名：Kiyonori Nagasaki
所属研究機関名：一般財団法人人文情報学研究所
部局名：人文情報学研究部門
職名：主席研究員
研究者番号 (8 桁)：30343429

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。